授業づくり研修講座　実践レポート

 　　　　　　　　　座間中学校　　　氏名　高橋泰代

単元名 　第１学年「ちょっとそこのあなた、私の身の上話を聞いてくれませんか。」

実践のポイント（工夫）

　・工藤直子作の「のはらうた」を紹介しながら、今度は、自分たちの身の回りの無　機質なものに目を向けさせ、そのものに成りきり、身の上話を作らせる。単元に入　る前に、国語教室通信で、工藤直子さんの元に送られてきた小さい子どもからの詩　を紹介し、感想を出し合い、次の単元への興味・関心を持たせた。単元の始まりに　は、教師による見本を紹介し、情感たっぷりに読み、「書きたい」という気持ちを　高めた。

実践内容

|  |
| --- |
| １、国語教室通信にて次の単元を説明する。２、「身の上話」の意味を確認する。単に、その時々の気持ちではなく、置かれた境遇　であるとか、人生であるということ。辞書的な意味だけでなく、実際の使われ方を確　認した。→言葉の小劇場にて（指導者作）３、身の回りで自分たちを支えている、さまざまな物を挙げさせる。４、条件を挙げ、２００字の文章を書かせる。　　条件　①字数は８割以上。　　　　　②１人称は「わたし・ぼく・おれ・わし」など自由　　 ③人物設定も自由。（年齢・性別・どこに住んでいるのかなど） ④書き出しの基本は「ちょっとそこのあなた・・・・」とする。５、交流１　４人グループでお互いの作品を交換し合い、気に入ったところ、自分には　　　　　できない表現など、心にぐっときたところに傍線を引かせる。６、交流２ 他のグループに紹介したい作品を一つ選び、本人もしくは同じグループ　　　　　の人が情感を込めて読む。７、代表作品を文集にする。８、講評（作品から学ぶ） |
|

振り返り

 書くことに抵抗のあった生徒も、２００字の文章を楽しんで書くことができた。書くことに重きを置いた前回の単元「グルメリポーターになろう 」を経たことも、今回の書きやすさにつながったと考える。お互いの作品からもたくさんの優れた表現を学びあうことができ、本校の１年生の単元としては適していると考える。